

大牟田市立手鎌小学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市手鎌小学校区は、大牟田市の北西部にあって、西は、三池干拓・有明海、北は、風光明媚な甘木公園を擁し、多くの古墳群が広がっている。また、古くから兼業漁村の地域で、幾代にもわたって居住している人が多い。

このような中で、本校は、「ふるさと手鎌 伝統文化の継承」と掲げ、校区の伝統文化の継承を中心として持続可能な発展のための教育を行う上で、体験的な学習による授業の改善と学年・学級経営の充実を図っている。

特に、校区の豊富な「人」「もの・こと」「自分」とのつながりを丁寧に探っていき、地域の自然、文化など再発見して、地域を大切にしたいという思いや未来の地域の姿について、様々な面から考える。資料や人材をふるに活用しながら子どもたちの心に響くように心がけている。

2 ユネスコスクールとしての活用・全体計画

<プロジェクト名 「ふるさと手鎌 伝統文化の継承」>

- (1) 1年生 「地域を題材とした紙芝居」 (生活科：2月 5時間)
- (2) 2年生 「こんなすてきな町なんだ」 (生活科：11月 9時間)
- (3) 3年生 「校区探検をして、校区マップをつくろう」「のりづくりに挑戦しよう」
(総合的な学習の時間：4月～7月 24時間, 2月 5時間)
- (4) 4年生 「受け継がれる文化財」(総合的な学習の時間：9月～12月 24時間)
- (5) 5年生 「郷土の伝統を調べよう」
(総合的な学習の時間：9月～12月 20時間)
- (6) 6年生 「感じよう『支え合う心』」
(総合的な学習の時間：9月～12月 14時間)

3 特徴的な活動事例

<5年生 総合的な学習の時間 単元名「郷土の伝統を調べよう」20時間>

(1) 目標

○地域の伝統、大牟田のたからもの「がたいね踊り」に触れ、地域伝統のよさを知り、みんなに伝える。

(2) 実際の展開

- ①「がたいね踊り」「黒崎の歴史」を学ぶ(5)
 - ・「黒崎の歴史」の紙芝居を見る。
(郷土歴史研究家)
 - ・「がたいね踊り」を学ぶ。



(がたいね踊り保存会)

地域の保存会の方から「がたいね踊り」や「黒崎の歴史」について紙芝居や踊りを実際にみせていただき、「がたいね踊り」は、干拓工事の時に頑張った女性（がたいねさん）の作業唄でユーモアたっぷりに表現されていることを理解する。



②「がたいね踊り」の練習と発表（10）

- ・「がたいね踊り」をグループに別れ練習する。
- ・「ふれあい文化祭」で発表する。
- ・「表現発表会」で作業唄を発表する。

手鎌地区公民館で、毎年開催されている「ふれあい文化祭」において、総合的な学習の時間に取り組んだ「がたいね踊り」を大牟田市内・地域の方々へ発表し、地域の伝統の良さを知り、地域全体に伝えた。

③「黒崎串だごづくり」を実施する（5）

- ・地域の方々と一緒に「串だごづくり」をして交流する。（歴史と里山の会、がた稲保存会）
- ・単元をまとめ、感想を相互発表する。

歴史と里山の会、がた稲保存会、地域の方々と自分たちが収穫した米を米粉にして、蒸しあんこを丸めて黒崎串だごを作る。串だごづくりは、地域で継続されみんなに親しまれている。



(3) 単元の感想

「がたいね踊り」は、干拓工事の時にがんばった女性（がたいねさん）の作業唄でユーモアたっぷりに表現されていることが分かりました。また、地域が大切にしている「がたいね踊り」をわたしも大切に、受け継いでいきたいです。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ユネスコスクールやESDに関する全職員研修の場を設けたことで、教職員の理解が少し高まった。
- ・子ども達は、手鎌校区には、豊かな自然や伝統的な文化など地域の方が受け継いでいることに気づいてきている。
- ・手鎌校区の伝統や文化を次の世代に伝えていかなければいけないことを実感することができている。

○課題

- ・プロジェクト名を「ふるさと手鎌 伝統文化の継承」と掲げ、生活科や総合的な学習の時間を中心に取り組んでいるが、単元の見直しも必要となってきた。
- ・子どもの体験活動を充実させるとともに、地域の方とのつながりが深まるよう学習展開を工夫していきたい。